

1. 会議の名称	君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議
2. 会議の開催日時	令和3年2月15日（月） 午後2時から午後3時
3. 会議の開催場所	君津市役所6階 災害対策室
4. 会議の議題	（1）第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略（改訂案）について （2）新たな総合計画の策定状況について
5. 公開又は非公開の別	公開
6. 傍聴できる者の定員	10名
7. 出席委員	江澤武夫、榎本光男、鶴巻郁夫、内山雅博、関谷昇、倉阪秀史、齋藤佳子、小関常雄、横尾隆義、
8. 欠席委員	松井健太
9. 出席職員	市長 石井宏子 企画政策部長 竹内一視 経済部参事 田守光洋 総務部次長 錦織 弘 企画政策部次長 丸 博幸 保健福祉部次長 長田幸二 経済部次長 茂木一也 建設部次長 石川雅一 教育部次長 高橋克仁 企画課長 馬場貴也 企画課副課長 中島志寿 企画課係長 中村峰之 企画課主任主事 東 聡年 企画課主任主事 部田俊明 企画課主任主事 石井悠太
10. 傍聴人の数	6名
11. 発言の内容	—
12. 備考	

【丸次長】

皆さんこんにちは。定刻前ではございますが、皆さんおそろいとなりましたので、ただいまより、令和2年度、第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催いたします。委員の皆様には、足元の悪い中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私、本会議の進行を務めます、企画政策部の丸でございます。どうぞよろしく願いいたします。恐れ入りますが、着座にて進めさせていただきます。

初めに、本会議につきましては、新型コロナウイルス感染防止のため、机にパーテーションを設置するなど、より一層の対策を講じて行いますので、ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

次に、本会議につきましては、君津市情報公開条例に基づき公開となっております。傍聴の方は6名でございます。その旨ご報告いたします。

では、続きまして、石井市長から皆様にご挨拶を申し上げます。

【石井市長】

皆様、こんにちは。市長の石井でございます。

天候の悪い中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。そして緊急事態宣言下でございますが、こうした会議を開催させていただきました。

本当に皆様ご多用の中、お集まりいただきましたことを感謝申し上げます。

さて、本日の議題は第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略の改定案と、新たな総合計画の策定状況についての2件でございます。

皆様から様々ご意見いただきました、この総合戦略を着実に進めていく中で、本年は市政施行50周年ということもございまして、新たな総合計画を今策定中でございます。

この策定、総合計画は市民の一人一人とともに君津の将来都市像、君津の未来という君津の未来で暮らしたいかということをお客様とともに考えながら、作り上げていくものだと考えております。

総合計画の策定にあたり実施したアンケート等の結果を示させていただきますので、皆様から忌憚のないご意見をいただくとともに、様々なアイデアを頂戴しながら、これからの50年後に向けた、まずは10年間の総合計画の立案と

いうこととなりますので、非常に重要なものだと考えております。また、これまでの10年間から様々な変化や新たなことがある中で柔軟に対応し、新たなものを創造する時期となりますので、是非、皆様方の様々な知見をお寄せいただければ幸いです。

どうか、皆様方の各分野の専門的な知見をいただきますようお願いを申しあげまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【丸次長】

ありがとうございました。ここで市長は、公務の都合上退席となりますので、ご了承願います。

～市長退席～

【丸次長】

次に、会議の出席者のご報告でございますが、時間の都合もございますので、有識者会議の一覧表及び席次表により代えさせていただきます。なお、本日、松井委員が都合により欠席でございます。

それでは議事に入らせていただきます。本会議の設置要綱第5条第2項の規定により、小関委員が座長となりますので議事進行をお願いいたします。

【小関委員】

はい。暫時座長を務めさせていただきますので円滑な議事進行のご協力をお願いいたします。

初めに、本日の会議録署名につきまして、齊藤委員を指名させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは早速議事に入らせていただきます。

議事1第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略改訂案について、事務局からの説明を求めます。よろしくお願い致します。

【事務局、議事について説明】

【小関委員】

はい。ありがとうございます。計画の見直しということで多くの資料がついているわけですが、ご質問等ございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ご意見なさそうであれば、まず、私からちょっと興味があるところ聞きしてよろしいですか。資料1の2で取り組みの方向というところの①で、若い世代、女性にターゲットを絞ると書かれていますが、これは次の議題にも関係するかもしれないですけども、アンケート結果で、若い方や女性が君津市に興味を持っていた結果が出ていたことを加味されて、今回ターゲットはこちらに絞っていくというふうに決められたと考えてよろしいでしょうか。

中村企画課係長。

【中村係長】

企画課の中村と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

取り組みの方向としまして、基本的な視点として、4つほど挙げさせていただいておまして、このうちの①から③については、既存の総合戦略の中にも掲げさせていただいております。

そのうち、①の若い世代、女性にターゲットを絞るというところですけど、第2期の総合戦略を策定するにあたり、アンケート調査を実施している中で、どうしても若い方々の転出傾向というところが結果として出ていると。

社会増減等の状況を見ても、若い方々が転出する傾向がございますので、そういった視点からもターゲットにした取り組みを行うことによって地方創生を果たしていくところで、①に掲げさせていただいております。

【小関委員】

私からも一つよろしいですか。

同じところの④の追加された新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立を図る。

これまさに君津市だけではなくて日本だけでもなくて、世界各国でいろいろ苦労されていることだと思うんですけども、君津市として独自と言えるような、こういうところに力を注いでいきたいこととかございましたら、教えていただけたらありがたいと思います。

中村企画課係長。

【中村係長】

今回、基本的な視点の中に、コロナウイルスの感染防止対策、社会経済活動の両立を掲げさせていただいている背景としまして、国の方でも総合戦略を改定しているというところがございます。その中では、二つ大きな視点ございまして、一つ目が、感染症による意識、行動変容を踏まえた地方への人、仕事の流れの創出。もう一つが、各地域の特色を踏まえた自主的、主体的な取り組みを促進。こういったものを地方創生の今後の方向性として国が示している中で、市としましてもコロナ禍における人の動向ですとか、今後の見通し等を踏まえる中で、まずは、感染防止対策、それと並行しながらの社会経済活動の両立について取り組みを進めていきたいというところがございます。

特徴的なところがございますが、資料1の3に新たに計画に掲載した事業で基本目標4において施策パッケージとしまして、基本的視点に伴う取り組みをいくつか具体的な事業として挙げさせていただいております。

こういった取り組みを推進する中で、地方創生を果たしていきたいと考えております。

【小関委員】

鶴巻委員。

【鶴巻委員】

今の小関委員のお話に関連してなんですけれども、前回、ここに参りました時に最近センターへの問い合わせでワーケーションが多くなっているということをお願いして、今回こういうのにも反映されてということだと思いますけども。私どもの宣伝というわけではないんですけど、地域づくりの特集号でテレワー

クを活用した関係人口の創出ということで、これを読んでいただくとですね、例えば、わざわざそのレジヤージュに行くのはどうかと思うけども、ワーケーションのついでだったらば行こうかとか、そういった特色ある取り組みが紹介されておりますので、是非この総合戦略の実行の際には参考にして、取り組んでいただけたらなというふうに思います。以上です。

【小関委員】

ありがたいご意見だと思いますので、情報は全員に共有化できるように、よろしくお願ひしたいと思います。

その他ございませんか。倉阪委員。

【倉阪委員】

お疲れ様でございます。他の自治体との差別化っていうのは、やはり必要だと思ひまして、ここでいろいろ挙がっていることも、他の自治体でもやっているようなことが、たくさんあるんですけども、君津市として他の自治体にはない、ここが特色であると、これが売りであるっていうところについて、どこですかって聞かれたらどういうふうに説明されますか。

【小関委員】

中村企画課係長。

【中村係長】

総合戦略の策定にあたってアンケート調査をいろいろさせていただき結果の中で、本市の特徴としては、大きくは豊かな自然、もう一つが、アクアラインによる都心との距離感、あと臨海部に立地する、製鉄業の存在というところがございます。

こういった魅力を通じて、本市の地方創生を進めていくことで、先ほど鶴巻委員がおっしゃっていただいた、ワーケーションの取り組みもそうですし、比較的都心から近い中での取り組みを推進していくことで、地方創生を推進していければと考えております。

【小関委員】

倉阪委員。

【倉阪委員】

ワーケーションの話、具体化するためには例えば通信環境を君津市は全て5Gにしますとかですね。何かこう打ち出すところがついてこないとですね、この計画を見ただけでは具体的に他の自治体よりも、こちらの方がいいんだっていうところがなかなか見えません。

あとは子育てについても、子育ての社会化っていうキーワードを入れていただいたんですけれども、それを具体的にどういうふうに進めていくのか。それが、総合戦略のレベルではなく、戦略の下のレベルかもしれないですが、何かそのパッケージで、訴えかけていかないと、なかなか君津を選ぼうかということにはならないかと思いますので、そこも併せて考えていただいた方がいいかと思いますのでよろしくお願いいたします。

【小関委員】

中村企画課係長。

【中村係長】

ありがとうございます。今年度からの取り組みといたしまして、都心に近いということから高速バスの通学定期券への補助を開始しておりまして、先ほど少し事務局の方からご説明させていただいた中小企業のテレワーク導入支援補助といったようなことですか、このコロナにおいて会社に行かなくとも、自宅や拠点から通信環境を通じた会社勤めが今後少しずつ浸透していくだろうという予測の中で、そういった方々をいかにこの君津に来ていただくなりしながら、地域の活性化につなげていくとかできればいいのかなと思います。

【小関委員】

地域のしごとの創生、他の地域との競争でございますので、そこで優位な点をPRできるように、詳細を詰めていただくことだと思いますし、未曾有のこの

状態からですね、前向きに皆が頑張れるようなピンチをチャンスに変えるような施策を提案していただけたらありがたいなと思います。

その他ございますでしょうか。横尾委員。

【横尾委員】

マイナビの横尾です。いつもお世話になっております。倉阪委員のおっしゃってたことに同感しているところございまして、総合戦略なのか総合目標なのかわかりませんが、ちょっと企業のイメージからすると戦略じゃないんじゃないかなと思っております。大変申し訳ないですけど、PLANとDOの間のところがあって、具体的に何をしようとしているだと、何か目標に対してこうというのが全然見えてこないの、議論がしにくいと言いますか、各部局の皆さんの頭の中には、こういうことしたいんだというのは間違いなくあられるでしょうけども、他の自治体とも色々とお付き合いさせていただいてますが、なんか全部一緒だなみたいな雰囲気、今この中にある君津らしさが残念ながら見えてこないのかなと。失礼なこと言って申し訳ないですが。

それとですねもう一つは一番冒頭の資料2のところ、2060年には人口がほぼ半分になりますよと、さらっと書いてありますけども、そうなった時に財政上どうなるのかと、これは市民にお伝えするかどうかは別としましても、君津市でシミュレーションされているのか、もっと深読みすると、人口は半分になります、高齢者が増えます、高齢者を支えるためのコストが増えますっていうと、企業でいうと完全に右肩下がりでコストばかり増える状態で、これは絶対危険な予測に入っていて、どういうふうに手を打っていくのかというシナリオが見えてこないなと、それぞれでこういうことをやりますというだけでなく、財政面からの、本当にどうやったら脱却できるだとか、或いは緩やかなカーブに落とし込むっていうのを少しやられた方が、いいんじゃないかなというふうに感じています。

それから、三つ目ですけど、基本目標の1ですけども、安心して働ける仕事づくりっていうところで、施策パッケージの地域産業競争力強化で、1-1で再投資支援の促進っていうのがあってですね、個人的にずっと思っていますけど、こういう会議になると大体は起業家を育てようだとか、新しい仕事を育てよう

とか、見つけようとかいうケースがすごい多いのですが、もっと大事なことは、今、君津市で働いている会社だとか中小で頑張っているところだとか、実はこういうところに再投資したりとか人を送り込んだり、或いは世代交代をすればしたほうが、元々インフラを持っているので、そちらの方が効率がいいのではないかなと思っております。悪いというわけではありませんが、宝くじが当たるような新規だけじゃなく、今既存で頑張っている中小企業さんだとか、或いは農家の方々や製鉄業の方とかに再投資するなど、こういった計画で一言は入っておりますけど、そこに対して本当に人材を送り込んで、きちっとやっていこうだとか、ちょっと抜けている傾向があるので、僕はすごく大切なことじゃないかなというふうに思いますし、そこで次の世代がですね、君津で仕事を継いでやっていけるという自信を持つ、このシナリオ作りっていうのは、すごく実は大切なことですし、君津に人が根付くことだと思っております。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。企画課の馬場でございます。総合戦略の中身ですが、他市と比較して抜きん出ているところが見えづらいというご意見については、私どもも計画の目標の達成に向けた事業を考えていく中で、ご意見を参考に検討させていただければと思っております。

【小関委員】

横尾委員。

【横尾委員】

君津市が何もないということではなくてですね、先日も君津市役所の前の道を通りましたけれども、ビバリーヒルズのように一つ一つの住宅が広くてですね、こっちに住めば、ちょっと遠いけど、広い家に住めるといって点だけでも、すごい大きいことだと思うんですけどね。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

今、横尾委員がおっしゃっていただいたことも、都心と比べて君津市の強みや優位性となりますので、ご意見を参考にさせていただきます。

また二点目の財政につきましては、おっしゃる通り人口が減少していけば税収が上がるということは言いづらいこととなります。君津市においては、次の議題にございますが新しい総合計画の中で、新たな財政フレームを、2030年を目途に作らせていただくと考えておりますので、皆様にもお示しできるのではないかと考えられます。

また、三点目の既存の事業者等への再投資につきましては、やはり出ていかないという部分について大事なことだと思っております。今後は、あげさせていただいた事業の中で、見据えながら進めさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【小関委員】

今お話のあった既存事業への再投資っていう点では、事業内容の見直しを行った中の基本目標1のところもですね、立地企業の設備更新や事業の高度化に繋がる再投資を支援するというところで色々動いていただいているのは事実でございますので、少しずつ見えてくるのかなと思ってございます。あと、榎本委員も承継問題で苦労されていると思うんですけども、こういうバックアップがあれば、既存の会社も、新しい世代でもっと頑張るんじゃないかというご意見などございますでしょうか。

【榎本委員】

商工会議所の会頭をしております榎本でございます。事業承継というところですが会社としてもですね、まずは自分の会社の経営診断をしたらどうかということで、新たに経営診断士も採用しまして、診断結果でこういうところが弱いように。また新しく引き継ぐにしてもこういうところを、強みを持ってそこに

対する人材を連れてくるとか、或いは後継者がいない場合はM&Aというようなことも含めてご相談に乗れるというような体制を今取っているところなんですが、一つ一つ会社によってすべて同じようなところはないので、1個ずつ話を聞いて対応していくしかないのかなと。とにかく地域の経済ということ、崩壊させてはいけないというのを目標に、このコロナの時期にそういうことを考えて、これが終息した後に重点的にやろうとか、目標を掲げながらやっていくのがいいんじゃないかと思っております。また飲食店についても、この時期に新しいメニューを一つか二つ開発をしていただいて、終息後には新メニューでお客様をお迎えするというようなことを飲食店さんにも、アドバイスをしているところです。

【小関委員】

市役所の皆さんも、商工会議所さんとタッグを組んでいただけたらなと思います。

その他ございますでしょうか。関谷委員。

【関谷委員】

私からは、資料2の上に推進体制がありますけれどもその点に絡んで、ちょっと確認というか、質問させていただければと思います。以前からこの会議では、いろんな意味での連携が必要だということは申し上げてきておりますけれども、第2期の総合戦略の中で、その後どういうふうに充実していくか。例えば先ほど、若い世代女性にターゲットを絞るってお話ありましたが、若い世代に、残ってもらいたい、若い世代に移り住んでてもらいたいとするならば、やっぱり、それに見合う環境を作り、動きを作っていくと、どういうふうな動きを作るのかという若い世代の立場に立ってみて、このまちで子育てしたいと思うのか。このまちで働いていきたいというふうに思うのか、この町で長い将来を見据えて、老後もこのまちに住んで大丈夫かって、こういうイメージが次から次に湧いてこない、このまちに住み続けたいってふうに思えないわけですよ。そのイメージが膨らむ情報発信もしなければいけないし、そのためには、子育てから教育から、その働くってということから、福祉ってということから、

全部がやっぱりこう繋がってこないと、そういう若い人たちが住み続けたいと、ここで頑張りたいと思える戦略になってこないと思うんですね。ですからそういう意味では、分野横断的な情報の共有、それから個々の事業の進捗管理だけではなくて、全体を俯瞰してですね、この若い世代にターゲットを合わせた取り組みが今どんな状況なのか、どことどこが上手く結びついているのか、どこがすっぱり抜けているのかと、これを検証しながら、この取り組みを進めていかないと、それぞれの部署でそれぞれ事業を管理して止まっちゃうと、これは君津だけに限らずどのまちもそういう傾向がありますけれども、だからこそ、そういうふうな進捗管理体制ってことも含めて、どういうところを結びつけていくのが、本当に君津らしいものになっていくのか。例えば、地元の産業界、事業者の方々と学校ともっと連携して、でもっていろんな可能性を探っていくっていうのも、非常に大事な取り組みの一つですけれども、そういうアイデアを一つ一つ、聞き出して、膨らませて続いていくってことをしないと、なかなかそういう連携という動きになっていかない。先ほども財政の話もありましたけど、財政状況はどこも厳しい。だからこそ、税金を使うってこと以外のお金だったり人だったり物だったりっていうものを引き出して繋いでいけるかってことが今、まちづくりが問われているわけですね。だから、どうやったらその力を、引き出せるか、この視点で、この総合戦略っていうのを回していかないと、ただ税金を使って終わっちゃうということに下手をするとなりかねないので、どうやったら人材引き出せるか、どうやったら地域にある潜在的な資源をもっと引き出して、各方面で共有できるか、そういうことを少なくともこう考えて、ある意味でのプラットフォームを作りながら、そういうことを積み重ねていけるような推進体制が今どこまで想定されているかどうか、この点ちょっとお聞かせいただければと思います。

【小関委員】

中村企画課係長。

【中村係長】

現在の施策に関わる効果検証ですけど、まずこの第2期の総合戦略につきまし

では今年度スタートした計画のため、来年度以降に今年度の施策の評価をやっていくこととなります。例年ですと、その施策に係る事業を担当課の方で一次評価、そのあと各部の次長による二次評価、また、この有識者会議委員の方々による外部評価という流れで、最終的には経営層の会議の後、議会へ報告をする流れとしております。関谷委員にご指摘いただいたその施策が横断するところをもっと必要という部分につきましては、まさにおっしゃる通りなのかなというところで、今回につきましては、施策をパッケージにしてそれを推進していくことで、戦略に掲げさせていただいているところでもありますが、それをどういうふうにワークさせていくかというところが一つ課題にありまして、こういった有識者会議において執行部も全庁的に参加させていただくことが一つ、またこの次の議題にはなりますが、総合計画の策定を進めている中で市民参画を、いろいろ取り組みをやっていきます。色々な団体にアプローチしながらヒアリングをさせていただいているところですけど、それにあたっては企画部門だけではなく、関係する部門もヒアリングに参加しながら、実際に現場でどういう声があるのか、企画部門だけでなく担当課とも共有させていただきながら、どういう取り組みができるのかということ、検討させていただいているところです。

いずれにしても、そのコミュニケーションだったり共有、これをなかなかそのコロナの状況もあるので、難しい部分であるんですけど、オンライン等、色々なツールを駆使しながら、コミュニケーションをとることによって、まずはみんなが同じような共通認識を図るという取り組みが重要なのかなというふうに認識しております。

【小関委員】

関谷委員。

【関谷委員】

ぜひそういう方向で動いていただけたらなというふうに思いますが、例えば今、市民参画とかっていう話も出ましたけれども、どのまちもですね、やっぱり点に留まっているんです。例えば市民活動団体単体とか、事業者さん単体

とあって、その単体で役所も相対しているの、点と点の連携に止まっちゃっているんです。これ今後多分共同ってこと考えていくのであればもっと面的な動きにしていけるかどうか。特定のプロジェクトでも事業でも何でもいいと思いますけども、このことについて、この業界はこんなふうに協力できるよとか、この世代はもっとこんなふうに貢献できるよとかってそういうプラットフォームを開いていかないと、その繋がり、今おっしゃったようなそういうコミュニケーションというのがなかなか広がっていかないでしょうから、是非そういう世代を繋ぐ、分野を繋ぐ、各団体を繋ぐっていうことを意識的に、いきなり全部ってのはなかなか難しいとしても、是非ですね意識的に進めていただけるといような可能性が少しずつ芽生えていくのかなというに思いますのでそれだけちょっと補足しておきたいと思います。

【小関委員】

竹内企画政策部長。

【竹内部長】

ありがとうございます。ただいまの点ではなく線になるお話いただいたところです。その辺がなかなか今まで出来てなかったというのが実情でございます。そういった中で本年度試みたんですけども、コロナの関係でちょっと延期となっておりますが、従来の市民活動団体の活動も、その団体自体の活動にとどまっているということで、その横連携を何とか図れないかということで、今また3月に計画しているんですけども、そういった団体さん同士でそれぞれが連携して、また新たな活動ができないかっていうようなことも着手してきておりますので、そういった分野に渡っていけば関谷委員おっしゃったような部分の点が線に繋がってくるのかなというふうに考えておりますので、今後とも努めてやっていければなと思っております。

【小関委員】

その他ございますでしょうか。齋藤委員。

【齋藤委員】

お世話になっております。産官学の連携というお話も少し関連するのかもしれないんですけども、一つ提案は行政の立場でどこまで私企業等と連携を図るかっていうのは非常に限界があるのかもしれないんですけども、君津の強みっていうこと、ちょっと考えてみますとやはりこの自然ということでは何度かお話が出ています。今非常にアウトドアで活動するというのが、ブームになっていることは皆さんご承知なのかと思うんですけども、例えばそういったアウトドアに取り組んでいる私企業に、どこかで具体的な魅力をコンサルティングしていただくとか、そういったような取り組みも一つしてみてもいいかなと思いました。これはコンサルティング会社に頼むのではなくてですね、実際にアウトドアで業績を上げていたり、活動事業を行っている会社ですが、非常にいろんな地方で注目されているというふうに聞いています。そういう会社に、自然がいっぱいだというのが非常に漠然としておりますので、そこを思い切ってそういった私企業から見ていただいてアドバイスをいただく。そして、それを事業につなげていくというようなこともちょっと一つ、僭越ながら、提案ということでお話をさせていただきました。

【小関委員】

中村企画課係長。

【中村係長】

ご提案いただきありがとうございます。アウトドアということでしたけれども、コロナの状況ではありますが、市内のキャンプ場にお客さんが来ているというお話も伺っております。そういった中で、単に豊かな自然というだけではなくて、もう少しそこを深掘りする中で、アウトドアっていうところに焦点を絞った取り組みってということと、或いは先ほど鶴巻委員おっしゃったワーケーションと上手く結びつけるだとか、まだまだ君津市の可能性っていうものがあるかと思っておりますので、そこは色々な角度からの取り組みを検討しながら、進めていければなと思っております。

【小関委員】

他にご意見、無ければ次の議題となりますが、いかがでしょうか。横尾委員。

【横尾委員】

若い女性をターゲットにするってお話が何回か出ていますし、今回もトップ事項に出ているんですけども、若い女性だとか子育て世代って、非常に大切なことを教育だと思っているんですね、これなかなか行政の枠組みで難しいんですけども。例えば国でやっている、高校2年生から1か月だけ他県に行く一時的な留学ですね、勉強してそれで交流人口なり、或いは友達が出来て、その自治体で将来働こうかなとか、そういった枠組みがなかなか高校となると、県立であったり市の範囲から超えてしまいますが、皆さんに言っても難しいかもしれないですけども、でも出来るところってあると思っていて、その中高、或いは大学までの縦の教育に対しての行政の考え方をもうひと工夫、ふた工夫できないのかなって思います。場合によってその枠組みがとれるとするならば、私立のですね、中高大と、1個飛び越えてですね、君津市さんと、そういった大学高校と連携してですね、地域教育だとか、或いは国内での交換留学をやっていくということは非常に大切なのかなというふうに思っています。多分子供が生まれて、どう育てようかというふうになったときに、学力については、多分このコロナの中で、いわゆるいろんなデジタルなど、テクニカルなことを使ってますね、壁はだんだん無くなっていくんでしょうけども、情操教育だとかこういう自然の中で育まれる、そういった教育については君津でしかできないというようなところをですね、是非、極端に言うと、ゆりかごから大学までですね、行政の思いが入り込めるような、地域になれば、きっとそれを評価されて、若い人たちが子供できたら、君津に来ようということになっていくのかなというふうに思っています。

そのあと、非常に大切なことが50ページに書いてありましたけど、市としてどういうふうな活動を、今日のこの場でもそうですけど、君津市や外に対してですね、PRしていくことが非常に、重要なことなのかなというふうに思っています。行政はそのPRのところは下手じゃなくて、何か躊躇しているっていう気がして、いつも思っているんですね。是非ですね、そこを早め早めに

どんどん情報発信していく。そういった市政をしていただきたいなというふう
に思っています。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。留学ということではございませんけれども、昨
年、埼玉県の白岡市と新井白石を起源とした友好都市協定を結びまして、コロ
ナの関係で難しいところはございますが、君津市の子どもと白岡市の子どもが
交流する機会を設けることができたらなと考えているところです。また、情報
発信につきましてはご意見を参考にさせていただきます。また、齋藤委員より
アウトドアや私企業との連携についてご意見いただいたところですが、現在、
学校の統廃合を進めておりまして、空いた校舎の利活用についてサウンディン
グ調査を行った際に、アウトドアに使えないかというご意見もございましたの
で、企業の方のご意見も踏まえ進めていければと思っております。

【小関委員】

高橋教育部次長。

【高橋次長】

教育部次長の高橋です。貴重なご意見ありがとうございます。この総合戦略に
直接関係があるものではございませんが、教育委員会としては学校再編の計画
を作っております、幼児から小学校、中学校、高校との連携を打ち出してい
るところです。また、企業との連携ということで職業体験など話し合いをして
いるところでございます。また、先ほど話しがございました、白岡市との連携
ということで、今回初の試みでプログラミングコンテストを開催したところで、
交流についても進めていけたらと思っております。関谷委員のおっしゃる通り
で取組みが点になっている部分もありますので、点を線に、さらには面になる
ように取組みを進められたらと思っております。

【小関委員】

皆さんどうもありがとうございました。

これで、議題1は終了させていただいて、議題2の方に移りたいと思います。
議事2新たな総合計画の策定状況について、事務局の説明を求めます。

【事務局、議事について説明】

【小関委員】

ありがとうございます。皆様からご意見を頂戴したいと思いますが、ございますか。内山委員。

【内山委員】

新たな総合計画の策定状況ということで、アンケートの結果等の取組状況の話がありましたが、私も現実的にこのアンケートの内容をとというのは正直な意見だと思っていますので、こういうものを、考慮しながらやっていくべきじゃないかと思っております。

実際に結果を見てみますと、まず資料3のところがありました、転入者のアンケートで君津市への転入の理由というのは、結婚が一番多く書いてありましたが、実際のところ転勤が18.4%、就職が18.2%ということで、仕事の関係が36.6%ですので、仕事の関係という方が一番多いということだと思います。

その一方で、対岸在住者或いは千葉県北西部の在住者の方のアンケートについては、魅力があるのは、自然で38%という意味で一番多くなっていると思います。

それと、若者と女性とありましたけれども、その代表となるような高校生のアンケートがありましたが、市民の郵送アンケートを見てみますと、君津への愛着は、77.6%ということで、皆さん愛着あるということになりますけれども、高校生はまあまあ好き以上が4割程度しかいないというのが現実だと思います。

これが実際の若者の考えというところだと思いますし、この高校生たちが、卒業後地域を離れ卒業後の地域で就職と考えているのが40%もいると、さらに、

今住んでいる地域から通学して、地域を離れて就職が 34%いるということで、君津で就職しないと考えている人が 74%もいるということになります。

また定住したくない理由としては、通勤・通学が不便と感じるが 41.7%、地域に希望する就職先がないが 25%ということで、今地元で通勤するのにちょうど良い所がないよってというのが合計すると 66.7%になるよってというのが、高校生の回答だと思うんですね。

だから、現実的に考えると、対岸や北西部の君津を知らない方々が、自然に対する魅力を感じているんでしょうし、入ってくる人については実際のところは仕事の都合が多いと。高校生については、66.4%の就職先がなかなか厳しいと、企業がない、ということから考えると、長期的な部分を必要であると思うんですけども、人口減少に歯止めをかけるというふう考えた場合は、目先のところで商工会議所が中心となっている君津インターチェンジ周辺の動きもありますけども、ただどうしても時間かかる話だと思いますから、もっと手っ取り早く企業を誘致する、或いは先ほど話しのありましたように、地元の中小企業を、支援する中で言うと、規模を大きくしていくと人を雇えるようにするとか、そういうところで、君津市で働きたいという人を増やす必要が、早急に必要だというふうに私は、アンケートを見る限りは読み取っております。実際、金融機関として、この人口の減少等がかなり厳しい状況だと思いますし、我々の銀行でも館山方面に営業部隊を集約しております。鋸南、白浜、和田、千倉等では融資も、或いは投資信託の販売が店頭ではできない状態になって、館山に人を引き上げているという状況になっています。

これは、人口減少を目の当たりにする中で、金融機関も生き残らなくてはいけない状況で、人を減らす、そして集約するというような流れになっています。ということは、人口減少が続く限り、もしかしたらこの君津もそういう地域になりかねないというふうに、危惧しております。

長期的な展望も大事だと思いますけど、短期的な取組みを作っていくということも早急に必要ではないかなとアンケートを通じて感じました。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

ありがとうございます。こちらのアンケート結果につきましては、全世代の方を対象にした場合は君津市に愛着を持った方が多い傾向にありまして、若い世代とのギャップが明確に出ている部分ではないかなと感じております。今後、アンケートの結果については市民の方たちとの対話の中で示させていただくなど活用しながら計画策定に反映していきたいと思っております。

目先のというお話もございましたけども、今年度から君津版ハローワークとして市役所内で相談を受けさせていただいております。それから、大学への進学タイミングで君津市を出て行ってしまうことに関しては、通学定期券の補助事業をさせていただいています。今年度は授業がリモートになった関係で学校に通学する方が少なくなっているところですが、この事業がなければ君津から出てきたけども、補助のおかげで君津から通学ができたというようなご意見を複数いただいております。またこのアンケート結果も踏まえて計画作りを進めていきたいと思っております。

【小関委員】

その他ございますか。横尾委員。

【横尾委員】

空き屋ですが、行政の方の努力がないとできないと思っていまして、実際には仏壇の問題だとか、なかなか手放せない、貸してくれないといったことや、あと近隣の目だとか、色々あろうかと思っているんですけども、防災上や防犯上も含めてですね、早く対策しなきゃいけないっていうのがあるんですけど、色々な自治体で言っているんですけど、空き家に関して固定資産税を上げられないかと思っております。要はですね、手放さざるを得ない、今の固定資産税だと空き家をそのまま放置した方がいいんじゃないかというような発想になっていらっしゃるんじゃないかと、或いは面倒くさいということなんすけど。

でも、このまま空き家のままにしていると良くないという施策をやってもいいんじゃないかとずっと思っていまして、これはどういうレベル感で、国なのか、

県なのか、いわゆる市町村なのか、或いは特区を使うのかってあるかと思うんですけども、この辺を君津市さんあたりにして突破口でやっていけただけると、非常に空き家が出やすい、手放しやすい、失礼な言い方ですけども、そしてその上で有効活用ができると。空き家問題って、手放していただかない限りは有効活用できませんし、防犯防災の観点からも問題になってしまいます。ただ当然行政の立場から個人の資産に手を出せないっていうのがあると思うので、そういったことも、改めてご検討していただけないかなと思っています。

あと、もう一つは、ちょっと僕はよくわかってないのでJAの方にご意見いただきたいところですが耕作放棄地ですけども。いろんなところで相談を受けて何かしようと言ってきたのですが、農振地域の問題が出てきていまして、この農振を外す手続きが非常に複雑かつ大変で、時期が年2回ぐらいしかないとか、単純に農振を外していいのかわからないんですけども、ちょっとバランスがとれてないままの発言なんですけど。ただもう少し本当の意味で農業振興をしようとか、他に転地できないから、もう農業も出来ないし、転地ができないとか、外すのも大変だから残っているのか、こういう見極めっていうのを大きく舵を取って動かれた方がいいんじゃないかなと思っています。2点難しい問題の投げかけとなってしまっても大変申し訳ないんですけど、そんなこと考えています。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

空き屋ですが、はっきりと数値などは覚えておりませんが、横尾委員のおっしゃるような更地よりも居住のための建物がある方が税法上で固定資産税が軽減される制度があったかと記憶しております。そのため、直すことに関しては上位法との関係が多々あるのかと思っております。ただ、君津市では空き屋と定住に関するホームページがございますが、昨年と比べると閲覧数がどちらも2倍、3倍となっております。どちらかといえば空き屋の方が閲覧数も多い状況となっております。来年度の取組をする中で活かしていきたいと考えておりま

す。

【小関委員】

茂木経済部次長。

【茂木次長】

経済部次長の茂木です。委員がおっしゃる通り、地権者の一存で農振を外すことは非常に難しいものとなっております。君津市では今年度末より農業振興地域の見直しの計画策定に入る予定となっております。しかしながら農振を外すのは、従来通り難しいものとなりますので、ご意見を参考にさせていただき今後の農業振興に進めてまいります。

【小関委員】

ありがとうございます。その他ございますでしょうか。竹内企画政策部長。

【竹内部長】

いわゆる一般的な空き家につきましては、確か税法上で建物が建てられていれば6分の1だったかと思いますが、これは国の制度上の問題があるという認識はございます。そういった制度の中で、本市においても空き家が年を追うごとに増えてきているということでございますので、今年度から空き家を中心に中古住宅の奨励制度を、改めて制度化いたしまして、少しでも空き屋を減らそうという取り組みをさせていただいております。兼ねてから空き家バンクの取り組みも、平成27年度から始めさせていただいておりますが、少し制度がマンネリ化してきておりますので来年度から、少し新しい部分を入れてですね、取り組んでいこうかなというふうなことも考えてございます。そしてまた、空き家とともに空き家が増えれば空き農地、遊休化農地も増えるわけですから、そういった部分も何かその空き家とセットで取り組んでいくことができないかという検討をさせていただいております。そういった部分を合わせて取り組んでいくことで、本市のみならず全国の解決の糸口になっていけばなというふうなことを考えてございます。以上でございます。

【小関委員】

ちょっと私からよろしいですか。細かい話なんですけども、ホームページの閲覧数が2、3倍になられたっていう話をいただいたんですけど成約済みの件数とかっていうのはわかるのですか。

馬場企画課長。

【馬場課長】

ホームページの閲覧は不特定多数の方のため、個人の特定は難しいものとなっておりますが、市役所に直接ご相談いただいた方が、今年度は十数件ほどございます。その中で、実際に君津市でお住まいになられた方は1件とか2件とかになりますけども、それ以外の方とは継続的に情報交換をさせていただいております。移住、定住の関係は企画課で担当しております。当然、子育てなどご質問いただいた際には担当部署とも連携を取りながら、横断的に取り組んでおります。

【小関委員】

個人的な空き家を探す以外にも、都心の方たちっていうのは、弊社のグループ企業にもいるんですけど、都心を離れて、田舎の方に小さいオフィスに構えようというようなことを検討し始めているところもございまして。市内のテナント等も使えたらいいのではないかなと考えています。

耕作放棄地についてはいろんな問題あると思うんですけども、君津市としても非常に大きな問題だと思いますので、是非よろしくお願ひしたいと思います。その他、皆さんからございますか。関谷委員。

【関谷委員】

一つはこの総合計画と総合戦略の関係がどうなっているかっていうことです。私も、いろんな自治体に関わっていますけども、この第2期に入るところでは総合計画等抱き合わせでいくっていうところが圧倒的に増えている傾向があって、タイミングがあれば、総合戦略を総合計画の中に、もう一つの章として盛

り込んでしまうというなこともやられていますけれども、その辺関係がどうなっているか、もともと根拠法が違うものっていうところもありますし、あとは予算組みから出てくる予算の関係上、こういう形態をとらざるをえないってふうなところもあるってことは承知していますけれども、君津市として、この辺を回していく時にこれらの総合計画と総合戦略ってものをどういうふうに関わらせていくのかっていうことが、まず伺いたい一点目です。

二つ目は先ほど申し上げた、横断性、これは総合戦略にならず総合計画においても、問われてくる場所ですけれども、それが合わせて考えられているのかどうかと同時に、これは先ほど申し上げましたけども、総合計画というのは、行政がやることか言っておけばいいっていう時代ではもうなくなってきていると。

つまり行政がやることになりますけども、もっと市民とか地域とか、民間ベースでやれること、ここをもっと内発的にとか創発的に、それを膨らませていく、行政はそれを支援していく、或いは共同連携でやっていくと、いろんな回路があって、その課題解決系であろうと、魅力創出系であろうともいろんな動きに繋がっていくというところがあると思いますので、そういう意味では、総合計画がどんなフレームの内容で検討されているか、ちょっと詳しくは存じ上げませんけれども、そういう市民民間地域の力を引き出していく、或いはそれを生かしていくっていうふうな形にできるかどうかってことがすごく大事だと思います。これ、どうしてもですね、まだまだ、どの自治体も縦割りになっちゃって、一例を申し上げれば、困難を抱えた子供たちに対する支援ってことがあるとすると、それに関係する事業を、例えば、教育委員会だとか、或いは生活支援部署が、いくつかの事業を持っている相談窓口事業持っていたり、カウンセラーの配置だったりとか、いくつかの事業を持っている、地域は地域で、例えばある団体は子供食堂やっている、ある団体は学習支援やっているっていうふうないろんな動きがあり、いかんせん先ほど申し上げたように全部点なんです。だから、俯瞰してみたときに、どういう部分をうまくいっているのか、支援ができていっているのか、どういう部分は手つかずなのか、或いはまだまだ動きが足りていないのか。

これを炙り出すっていうことをやっていかないと、行政として本当に力を入れ

なきやいけない部分が見えてこないし、逆に市民、民間、地域の動きをもっと引き出していくっていうんだったら、こういうところで人を必要としているのか、こういうところでもっとお金が必要なんだとか、というふうな情報発信の仕方をしていかないと、逆に市民の側からすれば、どこで力を発揮していけばいいのか見えてこない、それを無関心というふうに片付けてしまうのは、有り得ない見方だと思っていて、関心がないんじゃないじゃなくて、関心を持つに至るまでの情報が不足している。だからなかなか色々な動きが出てこないというところもありますのでそういう環境づくり、或いは橋渡しってことも含めて、是非こういう動きを作っていただけたらということで申し上げておきたいと思います。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

まず、総合計画と総合戦略の二つにつきましては、新たな総合計画を作った際には、一つのものにできないかなということは協議しております。また、今回の総合計画の策定はちばぎん総研と行ってございまして、専門の方とも会話をしながら、うまく一つにまとめていきたいという方向性を持っております。

また二つ目の庁内の横断性につきましては、新たな総合計画の策定を企画課で音頭を取っておりますが、実行部隊、研究部隊としまして、各部の副課長級でチームを作っております。その中で君津市の強み、弱み、課題など整理しながら計画に反映していくよう庁内の一体化を進めていきたいと考えております。

次に、三点目につきましては、令和元年の台風の際には市役所の力だけでは足りていないと肌で感じたところでして、当時もボランティアの方にはたくさんお越しいただき、公助だけでなく自助と共助の重要性について市長とも話しをしながら進めてきたところです。アンケートにおいても、何かしらで市と関わりをもっていきたいという回答を多くいただいておりますので、地域の方々が力を発揮できるよう情報発信やアプローチに取り組んでまいります。

【小関委員】

横尾委員。

【横尾委員】

全体的な話になりますが、君津市をどうするか前向きな良いお話だったと思うんですけど、行政でもう一つ大事な仕事で皆さん当然わかってらっしゃると思いますが、住みよい君津と言っておきながら例えば外国人だとか貧困の方だとかひとり親だとかいわゆる社会的な弱者って言われているところへの施策が見えてこないのかという気がしております。特にこのコロナで見えない貧困だとか、様々なニュースで取り上げられているんですけど。こういったコロナ対策の中でもこの部分って、どうやって引っ張り出して、どういうふうに支援していったって、そういう人たちも含めて君津は住みよいと、先ほどの公助、或いは共助の部分が君津に来ればあるというところが、もう少し視点として入れられてもいいんじゃないのかなと思います。当然、今もやっていらっしゃるっと思っ

ているんですけども、そこに対しての方針、指針だとかですねそういった項目含めてですね、入れられたらいいんじゃないのかなというのを最後に付け加えさせていただきたいと思います。

【小関委員】

馬場企画課長。

【馬場課長】

ご意見ありがとうございます。委員のおっしゃるように貧困、外国人、ひとり親など困っている方はいらっしゃると思っております。この総合計画は2030年までを期間として策定を進めている所ですが、皆様ご存じのSDGsも2030年を目標としておりますので、誰一人取り残さない社会の実現に向けてご意見を踏まえながら進めてまいりたいと思います。

【小関委員】

他にございますでしょうか。よろしいですか。

非常に委員の皆様からですね、ありがたいご意見いただいたと思いますので、大きなたてつけの話から、行政として忘れてはいけないことを俯瞰して、将来像を提示してですね、市民の活力も吸収して一緒にやっていくような視点であるとか、最後に出ました社会的弱者への対応ですね、これも忘れずに、考えられていることを丁寧に表記してあげるってということが重要かと思えますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、以上をもちまして本日すべての議事を終了いたしましたので、進行事務局へ返したいと思ひます。皆様誠にありがとうございました。

【丸次長】

ありがとうございました。円滑な議事進行そして慎重な審議、また、委員の皆様からは貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後の取り組みの参考として、生かしていきたいと考えております。それでは以上をもちまして、令和2年度第2回、君津市、まちひとしごと創生有識者会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。